



恐竜のまちづくり最前線

パート 2



今後は恐竜化石を活かしたまちづくりを皆さんと一緒に考える取り組みが始まります。

《まちのうごき》

魅力あるまちづくりセミナー 「恐竜化石を活かしたまちづくり」



講演終了後、住民と意見交換を行う小林准教授

1月18日に開催された魅力あるまちづくりセミナーの基調として行われた「恐竜化石を活かしたまちづくり」講演会では、恐竜学の第一人者である北海道大学総合博物館の小林准教授より、恐竜化石には色々な価値が考えられるので、それらを活かしたまちづくりをしてはどうか。

また、他の地域のまちづくりを例に、恐竜化石を活かした今後のむかわ町の取り組みについてアドバイスがありました。

《小林准教授が考える恐竜化石の主な価値》

資産的価値

将来的には国の天然記念物となりうる。日本はもとより世界からも注目される研究価値があるので、北海道大学と穂別博物館が研究を進めるが、国際的に他の研究機関との連携構築もしていく。

教育的価値

本物の恐竜化石に触れる貴重な機会となるので発掘体験など教育プログラムの強化を図っていく。教科書へ掲載される予定。道内博物館との連携強化。TV番組によるPR、本の製作。

産業的価値

恐竜標本の複製、レプリカを製作し貸出や販売を行う。オリジナルグッズの販売。恐竜のブランド化。特に子どもを中心に人気のある恐竜に関するグッズとして商品価値があり、標本・レプリカ・ブランド関連・ご当地グルメ等への産業化が検討できる。

《講演会参加住民からの意見や感想》

- 子ども達にも発掘体験や、今回の話を聞かせてはどうか。
- 「日本の宝である」との話を伺い、この機会を活かした町づくりを考えていきたい。
- 町内外への宣伝をどのような形が良いか町民参加で検討してはどうか。
- 化石の可能性を素人でも思い描くことができた講演でした。
- 道の博物館としての誘致も考えてみてはどうか。
- 恐竜化石がいかに貴重で“ホンモノ”として魅力があるのか伝わりました。
- 先生の熱い講演を聴いて、自分に何ができるのか考えました。

1月31日に中高リーダー交流事業開催

町内の中学生と高校生が鶴川地区に集い「むかわ町において恐竜化石を活かした町づくりをみんなでアイデアを出して考えていこう」という題材により開催されました。この事業で生徒達からは「化石を掘るような食べ物を作る」「絵や工作のコンテスト」「コーヒーアート」「恐竜カフェ」「恐竜まつりを開催」「恐竜抱き枕」などたくさんの夢のあるアイデアが出されました。

メイン通りに恐竜ドーン!



個人のアイデアに対し、みんなの意見を出し合います

《博物館のうごき》

化石クリーニング作業は1名増員の予定で、今後はボランティアの協力も得ながらフル稼働で行います。また、新たな展示物はありませんが、春に向けて色々なイベントも検討中です。

人 の 動 き

平成27年1月31日現在

※()は前月比。住基法の改正により、外国人数を含みます。

- ▶ 人口 8,966人 (-30)
- ▶ 男性 4,408人 (-22)
- ▶ 女性 4,558人 (-8)
- ▶ 鶴川地区 6,050人 (-20)
- ▶ 穂別地区 2,916人 (-10)
- ▶ 世帯 4,418世帯 (-14)

平成27年1月1日～31日
出生 2人 死亡 16人
転入 17人 転出 33人

交通死亡事故ゼロ日数

平成27年1月31日現在



雪解けが始まる季節となりました。この時期はついスピードを出しがちになります。制限速度を守り安全運転を心がけましょう。

